

米政府の最も枢要な部門 CIA とは：想像を絶する悪魔的 犯罪機関

——『組織犯罪としての CIA』について

Greatchain

May 20, 2023

5/18 記事「CIA は世界を混乱させるために悪漢や過激派を使う」を読んで、驚かれた方がかなりおられるだろう。これを補足し、さらにもっと驚いていただくために、米ジャーナリスト Douglas Valentine の著書『組織犯罪としての CIA：いかに、この不法な作戦行動がアメリカと世界を腐敗させたか』 *The CIA as Organized Crime—How the illegal operations corrupt America and the world* を、ここに紹介しよう。ただ私は原著を読んではいない。これは Global Research という有名サイトに広告されたた多くの本の一冊で、著者自身と他の評者による内容を要約したものである。

Douglas Valentine による自著の要約：

CIA：国家的安全保障を偽った多国家的犯罪

この本は、CIA が南ベトナム市民に対して犯した、監視、コントロール、罠工作、監禁、拷問、それに暗殺の、念を凝らした工作に光を当てるもので、こうした慣行は現在も、アフガニスタン、エル・サルバドル、イラン、シリア、イエメン、その他において行われていることを知らせるものである。

それは、いかに CIA が、連邦麻薬取締り警察の内部に潜り込んで、麻薬の流れが、麻薬取引業者や、彼らが雇う外国の役人のために、滞りなく続くように配慮し、彼らの管理や情報や外交作戦の執行を、いかに指令するかを論じている。

ヴァレンティーンは、いかに、こうしたテロ行為や麻薬取り締まりの慣習が、CIA を動かして世界中の社会的・政治的な運動に影響を与え、アメリカの大衆を騙し扇動して、いかに、その行動をよいことと思わせているかを説明している。一方、彼らの隠された正体は、公的秘密とか、もっともらしい否定という、政府の与える防御の盾によって、保護されている。

最後に言っておくと、ヴァレンティーンは、CIA の最終的な狙いである「アメリカ帝国」を憎み、ますます反抗的になっていく「アメリカ人民」を選ぶ。

この本の他の評者によるコメント：

我々はこの世界で、ますますテロリズムを怖れて生きるようになりて、しばしばその出所のはっきりしない出来事や展開にプログラムされ、その触媒効果を受けて生きている。この本は、何十年も前にベトナムにおいて、CIA によって開発されたパラダイムのアプローチに、洞察を与えるもので、それは今日でも、アフガニスタン、エル・サルバドル、イラク、イエメン、その他の所で、戦略的に実行されている。

著者のヴァレンティーンは CIA について 3 冊の本を書いているが、彼の CIA 活動の研究が始まったのは、CIA 所長の William Colby が、CIA 職員たちをインタビューする、アクセス許可を彼に与えたときだった。職員たちは南ベトナムの「フェニックス計画」の、さまざまな様相に関係していた。この許可を、コルビーは後に大いに後悔することになった。CIA はそれを取り消そうとし、「フェニックス計画」の出版を妨げようと、あらゆる努力をした。そこには CIA の、ベトナムにおける念入りな、民衆の監視、コントロール、罠仕掛け、幽閉、拷問、それに暗殺のやり方が、文書記録されていた。

「フェニックス計画」の調査中にヴァレンティーンが知ったことは、CIA が、アヘンやヘロインを、ラオスの秘密基地から、南ベトナムお得意先である将軍や政治家のところへ、密かに流させていることだった。彼の調査でわかったことだが、CIA と連邦麻薬警察は連合して、議会命令によって、不法な麻薬がアメリカには入らないようになっていた。政府高官とのインタビューに基づいて、ヴァレンティーンは、2 冊の続き物の本、『一匹オオカミの力』と『群れるオオカミの力』を書いた。これらは、いかに CIA が連邦麻薬取締警察にうまく入り込み、彼らの管理執行や情報や対外作戦スタッフを上から指令して、麻薬の流れが滞りなく、その取引業者や、彼らが雇う外国の役人に、渡るようにするという内容だった。

最終的には、彼の調査資料のいくつかの部分が、「国家安全保障アーカイブ」、テキサス工科大学「ベトナム・センター」および「John Jay カレッジ」に収まることになった。

この本に含まれているのは、上記の本からの抜き書き、その後の数点の論文、現行の話題についての一連のインタビューの書き起こしなどで、その意図としては、CIA が今も行っている不法の、また法的な外部活動に、組織的な次元からの光を当てることである。こうしたテロ活動や、麻薬取締関係の論文やインタビューが明かにしているのは、いかに、CIA

の活動が、外国とアメリカ国内での社会的・政治的な運動に、インパクトを与えているかである。

一つの共通のテーマは、CIA がアメリカの人民を騙し、巧みにプロパガンダを行う能力であり、これは公的な秘密と、もっともらしい否定の、決して見抜けない、政府による懲罰の盾を通じて行われている。

彼らは 1975 年に「教会委員会」によって調査されたものの、CIA の慣習は今もそのままの内容であり続けている。ヴァレンティーンが跡付けようとしているのは、CIA が絶えず民衆を「アメリカ帝国」対「アメリカ人民」の対立状態に追い詰めようとしている事実である。

書籍カバーの短評：

「ダグラス・ヴァレンティーンは、勇敢にも、CIA の最も卑怯な、法から外れた活動のいくつかの内部を見せてくれ、諜報活動の間違ったすべてが、ならず者の行動であることを暴露した。彼は民衆の関心の歩哨であり、この本は人々に奉仕するものだ」
——John Kiriakou

「ダグラス・ヴァレンティーンは、米政府のこの犯罪的仕事の、血に染まったヴェールを切り裂くような本を書いた。彼は、信じられないほどの深い調査やインタビューを、アメリカの暗黒の真実を暴く魅力的な文章で書いている」——Ron Jacobs

「Doug Valentine は、人々が、拷問収容所や秘密の戦争の「暗黒面」を知る前から、アメリカの外交政策の黒い下腹を調べていた」——Robert Parry (Consortium News で知られる著名なジャーナリスト、ごく最近、故人となった)

[訳者注]

ジャーナリスト Valentine は、CIA の、ベトナム戦争や麻薬犯罪を中心とする、卑怯なやり方を調査したが、CIA の最も悪辣な側面は、我々（西側諸国）の読む主流新聞や報道機関の完全な一律統制（Mocking Bird と呼ばれる）を通じて現れている。

現在、広島で行われている G7 という首脳会議も、CIA によって操作された情報だけを真実として論じている。CIA が認めないニュース（例えば、アメリカによる「ノルドス

トリーム」破壊工作)は、ここには存在しない。ロシアを犯罪者として見る以外の見方も存在しない。我々はアメリカを犯罪国家として見ているが、世界的にその傾向が強まる一方であるにもかかわらず、それは存在しないことになっていて、「国際秩序」はCIAから見た秩序以外に存在していない。すなわち、ますます少数派のものになっていく歪な、犯罪者の見解が、現在、大きく新聞紙面に踊っている。